



『人生ピンチヒッター』3か条『人に接する呼吸を得ている者』2.『性格の悪くない者』3.『無規則で始める勇気と胆力を』

「がんと生きる 言葉の処方箋」池袋映画上映会

目白がん哲学外来 森尚子

2020年1月18日、としま区民センターで、豊島3カフェ(池袋、巣鴨、目白)と一般社団法人フェリーチェ結うさんによる映画上映会を行いました。

4か月前から準備を始め、チラシ、ポスター制作、足で稼ぐ地道な宣伝とチケット販売。とにもかくにも、みんなで力をあわせ、やるだけのことをしました。たくさんの方々のご協力あつての日々でした。

当日は、雪まじりの冷たい雨の中、たくさんの方々にお越しいただきました。映画の後、樋野先生と長野みずたまカフェ代表齋藤さんによる、7分間のビデオレターが流されました。終わった時の大きな大きな拍手。それまでのことが全て報われたような感謝と喜びに包まれました。その後、各カフェの代表者、杉浦さん、監督、プロデューサーで、トークショーをしました。

長時間にもかかわらず最後までおつき合くださった皆様。その暖かい眼差しと拍手に、ただただ感激していました。皆さんとの繋がりを、今後も大切にしていきたいです。

購入してくださった、
映画の収益は総て、
豊島区の慈善団体へ



「愛が深いところには、たえ間なく、
希望が流れ込んでくる」
ウィラ・ギャザー

寄付させていただきます。ありがとうございました。

先日、常磐線の勝田に向かう途中、水戸の手前でハクチョウが畑に数羽いるのを車窓から見た。

そういえば、水戸黄門漫遊マラソンは35キロ地点にくると目の前が急に開け、青い湖と白鳥、黒鳥の姿が目飛び込んでくる。千波湖だ。水戸の偕楽園のすぐそばにある。

後日、夫の運転で千波湖に再び行き、白鳥を夢中でカメラに収めた。急性骨髄性白血病で、骨髄移植をした夫は7年たち順調に回復していた。梅味のラーメンを食べ、歩き疲れてベンチでソフトクリームを食べた。その日の写真を2017年の年賀状に使ったことをなつかしく思い出す。夫は今はいないが、楽しかったなあと思うたくさんの思い出を残してくれたことはしあわせなことだと思っている。

丘の上のカフェ・シャローム 石井瑠美



●「使命」と書いた野澤和之監督



●千波湖の黒コクチョウとユリカモメ



「使命」

岡倉天心記念 がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」

山本ひろみ

先日行われた「がんと生きる 言葉の処方箋」池袋映画上映会では、豊島区3カフェの1つとして、お手伝いする機会を頂きました。

私は巣鴨のカフェの開所日も決めていない頃、この映画に背中を押して頂きました。そして、開所直前にもう一度みた時、監督から「お互い生かされている『使命』があるはずです。その時がくるまで楽しくやりましょう。」というメッセージを頂きました。池袋の上映会では監督がパンフレットに『使命』と書いておられたのを見て、その時のことを思い出しました。

昨年7月からカフェを開業し、難しいことにも直面しますが、皆様に支えられながらカフェを何とか続けています。私が生かされている『使命』や『役割』には、気づけずにはいますが、「良い師、良い友、良い書」と出会える場であるカフェの時間や今を楽しんでいきたいと改めて感じています。



編集:丘の上のカフェ・シャローム・石井瑠美

連絡先 TEL. 03-3943-1879

後援:一般社団法人がん哲学外来